

第3学年〇組 道徳科学習指導案

平成〇〇年〇月〇日 (〇) 第〇校時
授業者 教諭

1 主題名 いじめをしないために

教材名 「卒業文集最後の二行」(出典：東京書籍「中学道徳3 明日をひらく」)

2 ねらい 公正、公平、社会主義について、いじめを素材にいじめによって引き起こされる苦悩や後悔を理解し、多面的・多角的に話し合うことを通して、誰に対しても公平に接し、差別や偏見をしない態度を育てる。

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

「正義や公正さ」を重んじるとは、私心にとらわれず、正しいことを自ら認識し、実践するよう努めることである。また、「誰に対しても公平に接する」とは、偏ったものの見方や考え方を避け、自他を尊重し、分け隔てなく等しく他者と関わることである。これらは、さまざまな個性を認め合い、一人一人が安心して生活するために大切な姿勢である。中学生の時期は、理想を求め、正義感が強くなる反面、不正だとわかっていながら自己中心的な考えを優先したり、周囲の目を意識するあまり多数の意見に同調してしまう行動をとることがある。

指導に当たっては、自分本位な考えや自分の弱さに向き合い、「見て見ぬふりをする」「避けて通る」という消極的な行動ではなく、断固として不正を許さない態度を育てていきたい。また、個人的な感情から他者に対して差別や偏見をもたないように努めることや、お互いの良さを理解し、誰に対しても公平に接していこうとすることが重要である。これらのことを踏まえ、いじめによって引き起こされる人間の苦悩や後悔を理解し、生徒自身がこれからの社会の中で、他者とよりよく関わりながら生きるきっかけとしたい。

(2) これまでの学習状況及び生徒の実態について

本校では、毎年5月に全校一斉で人権教育集中指導を行っている。また、一昨年にはNHKの番組に関連し、「いじめ撲滅～行動宣言～」というメッセージを一人一人が考え作成する取り組みを行ってきた。これまでも折に触れ、いじめの問題について真剣に考え、いじめは絶対にしてはいけないと宣言をしてきた。

本学級の生徒は、子どもらしい素直な感覚をもって反応し、自分の興味をもつことに対して熱心に取り組める生徒が多い。一方で、最上級生になったとはいえ、視野が狭く、自己中心的な言動をしてしまう生徒がいる。また、正義感が強い生徒が常に前面に出てくるとは限らず、周囲の様子を伺いながら行動する場面も見られる。そのため、個々の心が成長しておらず、相手の立場や全体を見通した行動ができず、トラブルになることも少なくない。

中学校生活の残りの期間で、生徒同士の関わりをさらに深め、日頃から自分本位な甘い考えに打ち克ち、善悪を正しく判断し、時には正すように適切に声をかけ合い、より安心して生活できる環境づくりが自分たちの手でできる集団になってほしいと考えている。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、「私」が小学校6年生の時の苦い思いを書いたものであり、クラスメイトのT子がいじめたことを後悔する気持ちが描かれている。T子の貧しさや身なり、先生に告げ口しないことを理由に仲間とともに差別し、いじめをしてきた。T子の書いた卒業文集の最後の二行で「私」はT子の深い苦悩を知り、深く反省する。いじめの被害者側の苦しみも加害者側の心の変化についても考えられるものである。

この教材を通していじめによって抱える大きな苦悩や後悔を理解させ、誰に対しても偏見をもたず公平に接し、差別や偏見をしない態度を育てることがねらいである。

そのために、本時の話し合いでは、「私」がT子がいじめた理由を押さえた上で、私に謝られたらT子は許せるかどうかを推測させ、生徒自身の考えとその理由を話し合うことを中心に授業を進め、偏見、差別について、多面的・多角的に考えさせていきたい。

以上のことから、本主題を設定した。

4 学習指導過程

	学習活動と主な発問	予想される生徒の反応	指導上の留意点及び評価の視点 (☆) [考え、議論する道徳授業] (主体的対話的な深い学習) へのアプローチ ⑩
導 入	1 現代のいじめについて資料を提示する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースで知っていた。 ・思いの外、いじめは多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の内容「いじめ」について考える流れにすぐに入るようにする。
展 開	2 教材の範読を聞く。 3 道徳的な問題について考え、話し合う。 (1) 「私」はなぜT子をいじめてしまったのだろうか。また、その時、どんな気持ちだったのだろうか。 (2) 「私」にカンニングしたと責められた T子はどんな気持ちだったのだろうか。 (3) 卒業文集の二行を読んだ「私」に謝られたとしたら、「T子」は許せるだろうか。 4 自分のこれからの生き方について考える。(感想を記入する)	<ul style="list-style-type: none"> ・教材の内容を読み取る。 ・あまり深く考えていない。 ・仮想敵が必要だった。 ・自分が優位に立ちたい。 ・他者の手前、後に引けない。 ・ひどい。 ・心は汚くないのに…。 ・我慢の限界。 ・許す。素直に自分の非を認め、謝った気持ちを受け入れる。 ・許せない。一度謝られただけで心の傷は消せない。 ・簡単に許してしまったら「私」は反省できないのではないかな。 ・「ダメなことはダメ」と、正義が通る雰囲気が大切。 ・いじめは簡単に許される問題でないからこそ他者理解が重要。 ・一人一人が思いやりの気持ちをもつことが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教材を準備する。 ・登場人物等、簡潔に内容を紹介する。 ・「私」の行為の背景や思いを考えさせる。 ・「T子」の気持ちになって考えさせる。 ◎「許す」「許せない」のどちらかに自分の考えが近いのかを心情グラフ等を使って表し、その理由も含めて話し合いをさせる。 ☆他の人の意見を聞きながら、多面的・多角的にとらえている。 ・卒業文集の最後の二行に込められたT子の思いも押さえる。 ・記入時間を十分に確保する。 ・机間指導で記述内容から生徒の変容の様子を見る。 ☆いじめをしないために大切なことは何かを考えている。
終 末	5 本時のまとめをする。		<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの記述内容を発表させ、学習のまとめをする。

5 他の教育活動との関連

事前指導	学活で定期的に行ういじめアンケートを実施する。
道徳科	<ul style="list-style-type: none"> ・教材名「卒業文集最後の二行」 公正、公平、社会主義について、いじめを素材にいじめによって引き起こされる苦悩や後悔を理解し、多面的・多角的に話し合うことを通して、誰に対しても公平に接し、差別や偏見をしない態度を育てる。
事後指導	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめ」に関する話題（新聞記事、インターネットの投稿等）を扱う。
家庭との連携	学級通信で、生徒の感想を紹介し、互いの気づきや考えについて広く理解できるようにする。

6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・いじめによって引き起こされる苦悩や後悔を様々な視点から捉え考えている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・いじめをしないことの大切さを改めて理解し、これからの自分の生き方を見つめている。
- ・誰に対しても公平に接し、差別や偏見をしない態度を身に付けようとしている。

7 板書計画

